パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

216 フランシスコ・ザビエルと日本（2023 年 11 月 30 日）

パリ 7 区には、サン＝フランソワ＝グザビエ教会があります。フランソワ・グザビエとは、フランシスコ・ザビエルのことです。フランシスコ・ザビエルは、1549 年に日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師として、日本の歴史の教科書に必ず登場する人物です。サン＝フランソワ＝グザビエ教会は、その名の通りフランシスコ・ザビエルに捧げられた教会です。

教会のファサード上部にあるペディメント（三角形の部分）をよく見ると、ちょんまげに着物姿の侍を見ることができます。これは、ガブリエル＝ジュール・トマ（1825-1902）作「インドと日本の人々に洗礼を授ける聖フランシスコ・ザビエル」と題する彫刻です（写真右）。フランスの教会に、日本の侍を形取った彫刻があることにとても驚きました。また、祭壇の上部の壁には、「改宗した人々をキリストに紹介するザビエル」と題した絵（ロマン・カゼス作、1874 年）が描かれています（写真右）。教会の解説によると、この絵に描かれているのは、日本人、中国人、インド人、ヨーロッパ人です。日本、中国、インドは、ザビエルの人生で重要な意味を持つ国です。

フランシスコ・ザビエル（1506-1552）は、現在のスペインのバスク地方にあったナバラ王国に生まれ、イグナチウス・デ・ロヨラとともにイエズス会を創設しました。イエズス会は、ポルトガル王ジョアン三世からインドのゴアで宣教するよう依頼を受けて、1541 年にリスボンを出発しました。途中、ザビエルは、マレーシアのマラッカで、日本人のヤジロウ（弥次郎、又はアンジロー）と出会いました。ヤジロウから日本の話を聞いたザビエルは、日本に行くことを決意し、ヤジロウとともに日本に上陸しました。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

ザビエルの日本での宣教活動は、試練の連続でした。大名から許可を得た国で宣教活動をしましたが、キリスト教の教えは仏僧との争いを招き、室町幕府から全国での宣教の許可を得られませんでした。キリスト教を受け入れて改宗する人もいましたが、思うように進みませんでした。そこで、ザビエルは、日本で宣教するためには、文化的に日本に大きな影響を与えている中国で宣教する必要があると考えて、中国へ渡ることにしました。しかし、中国に着いたものの、入国することができませんでした。ザビエルは病に倒れ、思いを果たせないまま、この世を去りました。そして、遺骸はゴアの教会に埋蔵されました。

サン=フランソワ＝グザビエ教会に飾られている彫刻や壁画は、ヨーロッパで生まれてアジアでの宣教に生涯を捧げたザビエルの人生を、わかりやすく表現しています。